

椎茸普及指導情報 第10号

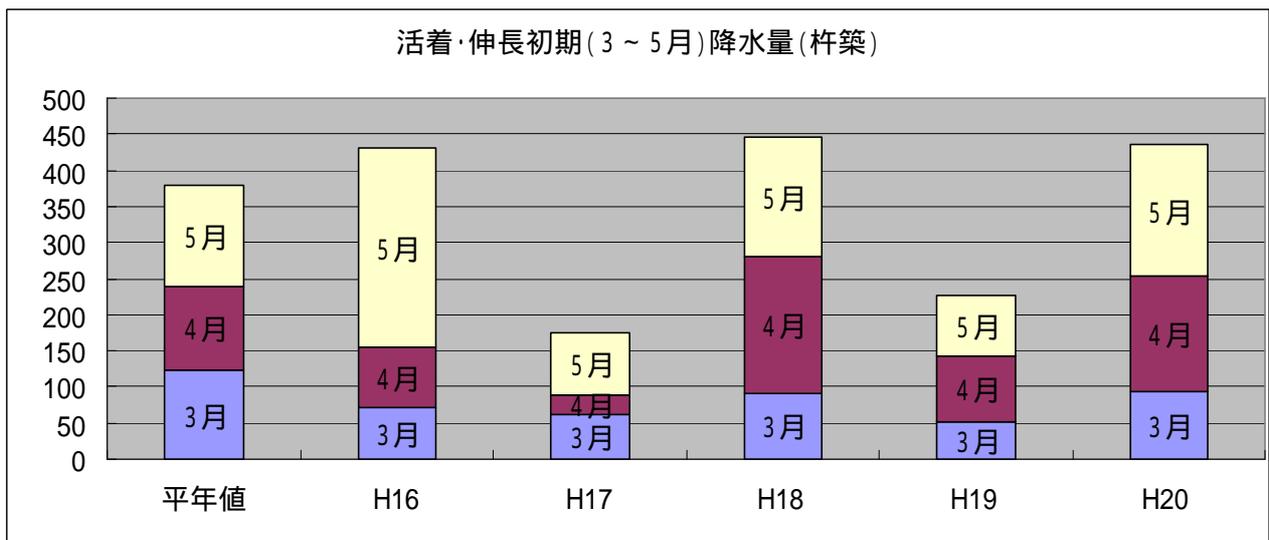
皆さん、東部地区品評会は多数のご参加いただきありがとうございました。林常務の話はいかがだったでしょうか？。本人の経験談に基づく話は私も心をうたれました。皆さんも共感できる部分があったのではないのでしょうか。来年は更に内容の濃い品評会が出来たらと考えています。

いろんな産業が厳しい中、乾しいたけ産業は23年ぶりの活況を見せています。今のうちに来ることを皆さんと考え、単収、単価の向上、効率的な作業につながる普及指導を心がけていきたいと考えています。

1 単収向上

(1) ほだ化時の水分管理

今年度の3月～5月の月毎降水状況は下図のとおりでした。平年以上の降水があり、初期活着は概ね良好ではと思われます。

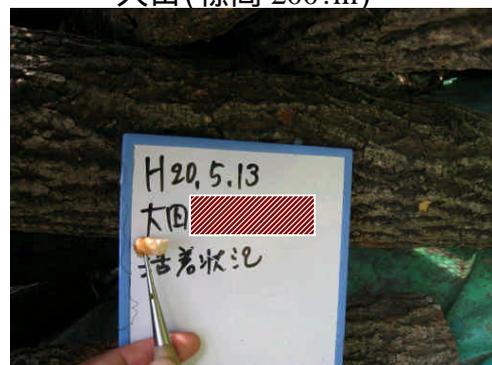


別府市 (標高 430m)



本年度植菌分の活着状況は、次のとおりです。どれも仮伏せをしたものです。5月の時点ですが、どこも植菌後順調な降雨により、順調な活着が進んでいるようです。

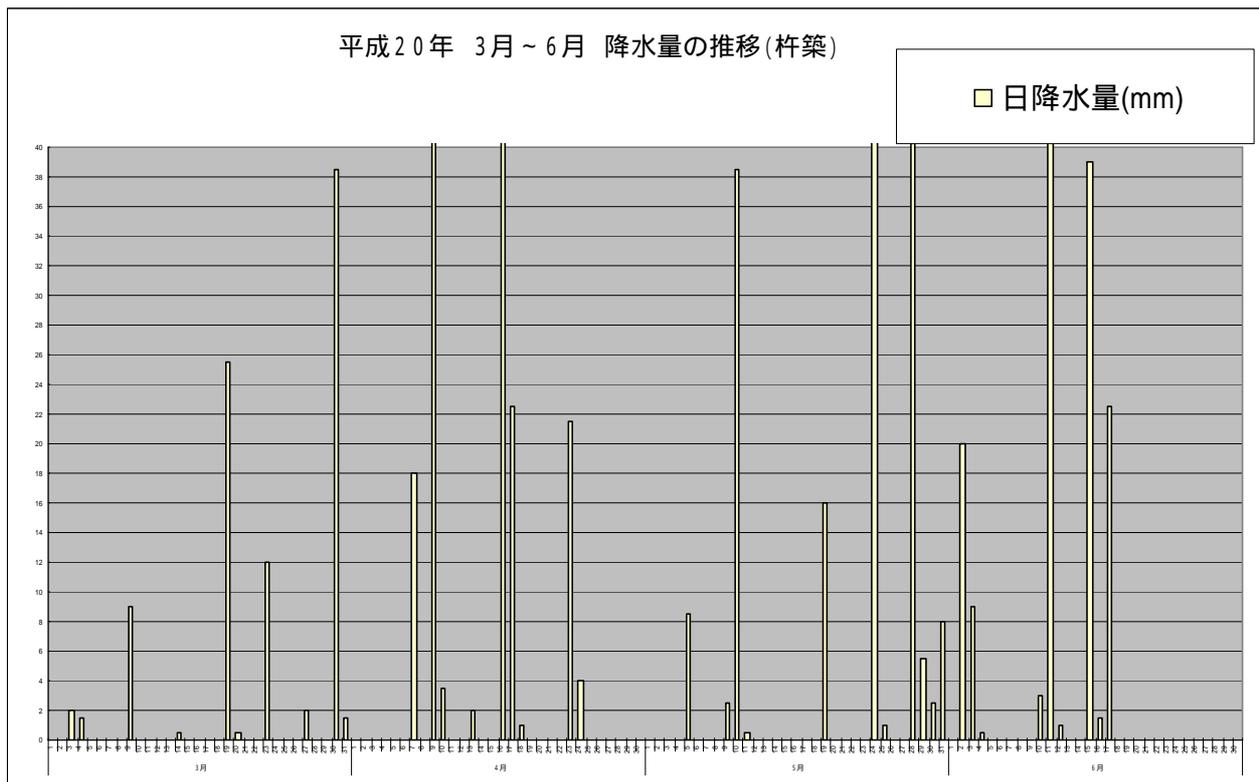
大田 (標高 200?m)



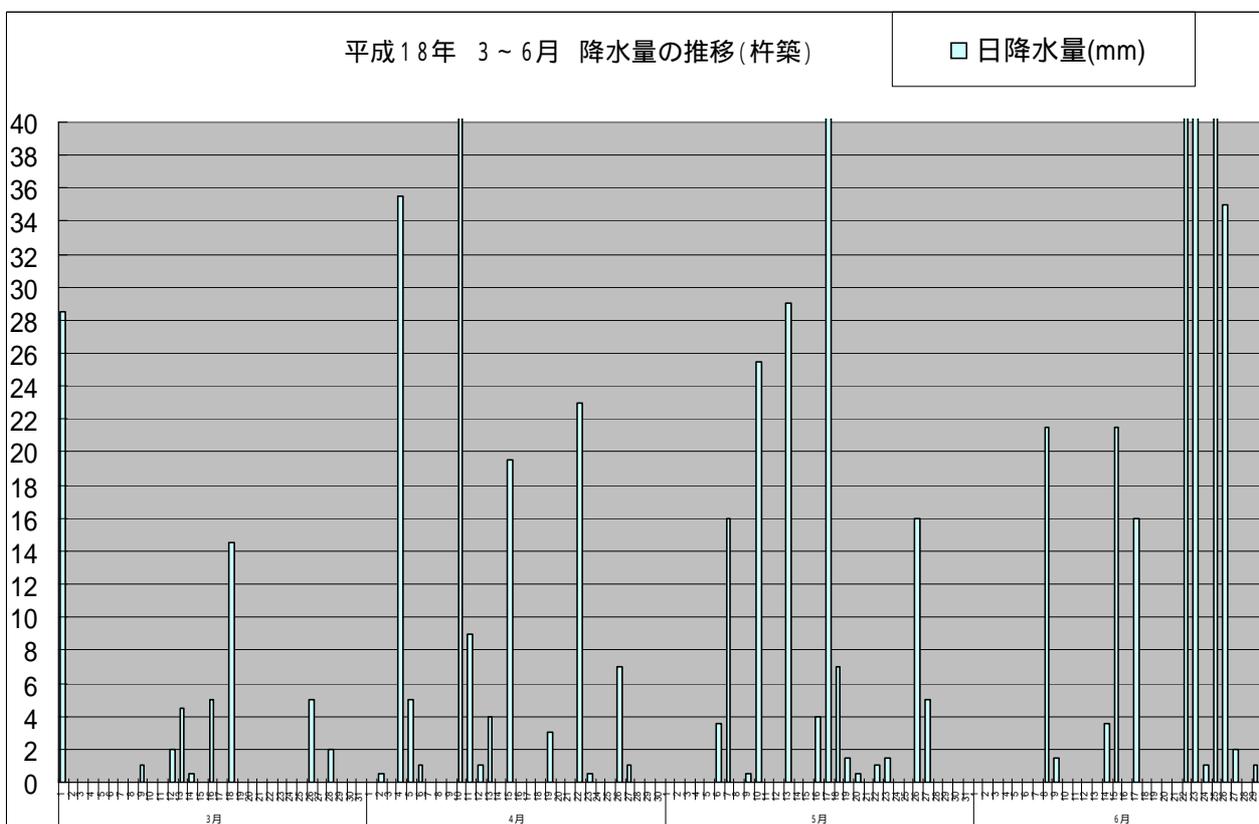
山香 (標高 300m)



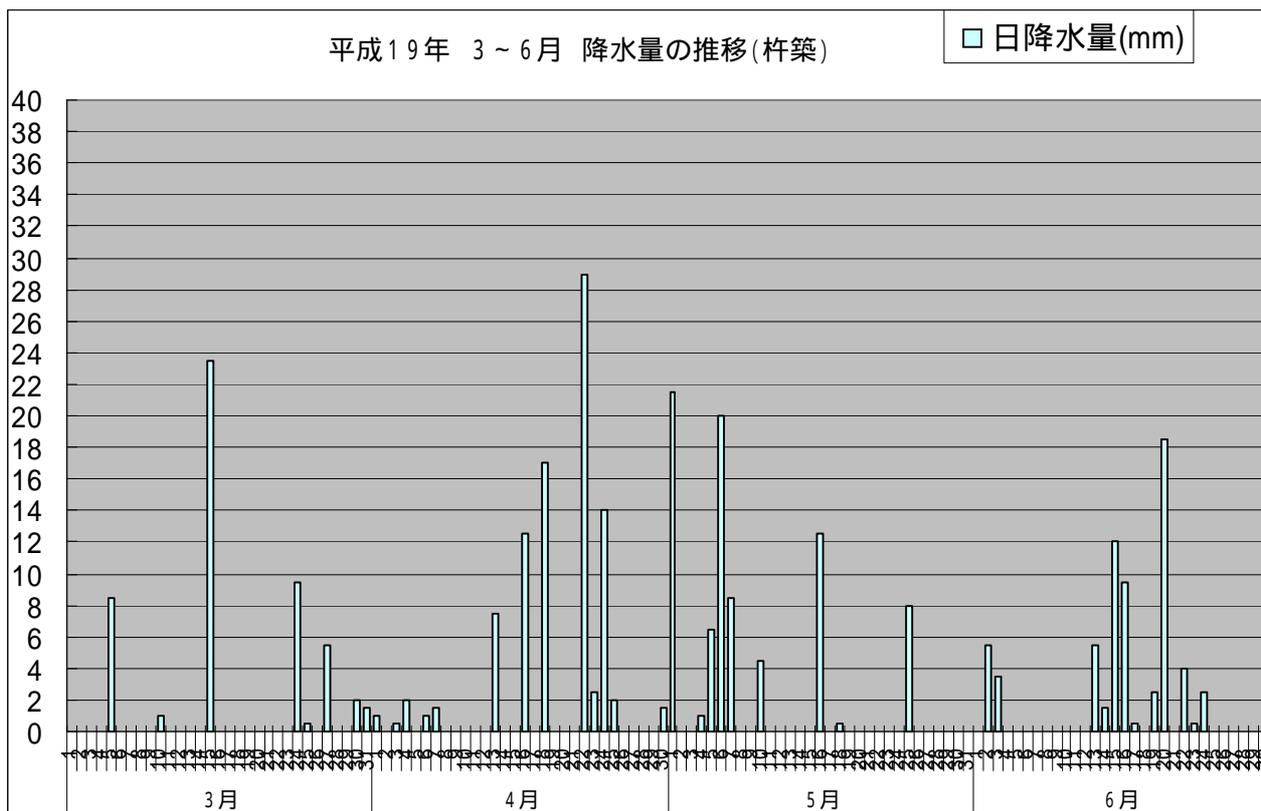
今年度の3月～6月まで(6/17 現在)降水量を日毎に見ると、下図のとおりでした。
 3月上、中旬、5月上旬はちょっと少なめでした。それ以外は周期的に降雨がありました。



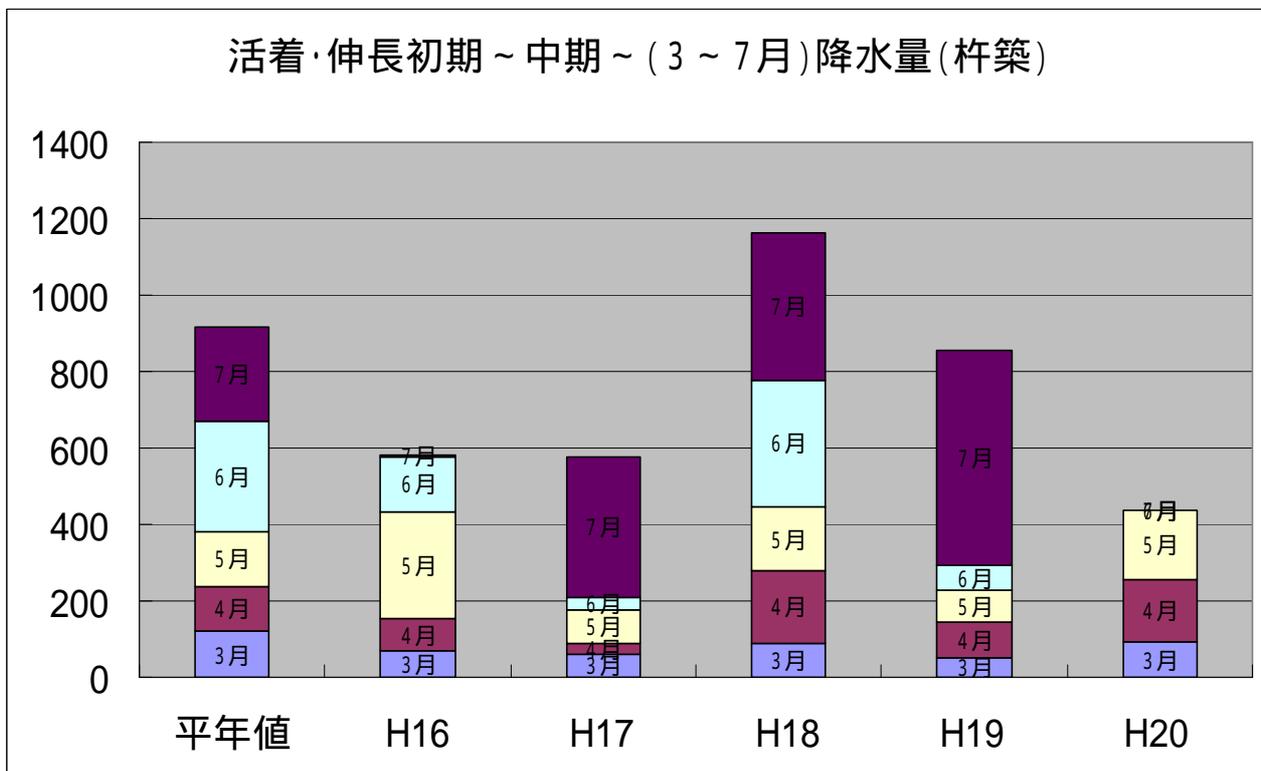
昨年秋の起こし木は良好な概ねほだ化出来たと思われませんが、植菌初期の降雨は次のとおりでした。今年度もそれに近い雨量と降水間隔で推移していると思われま



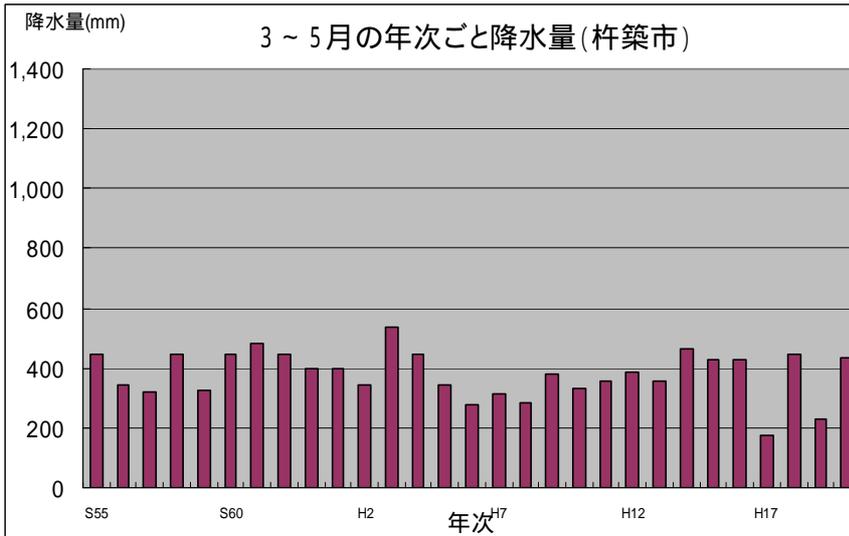
それでは、昨年度の同時期はという次のとおりです。
 昨年同時期は定期的な雨はありましたが、全体的に少なかったことがわかります。



しかし、昨年は7月にはかなりの雨が降ったことから、持ち直しているのではと思います。



ちょっと気になったので、植菌初期にあたる3月～5月の30年間の年次毎降水量の推移を調べたところ、次のとおりでした。



一番雨量が少なかったのは、ほだ木の状態が悪かったH17年と一致しました。

しかし、H19年も次に少ない。

最近の降雨不足は著しいものがあったことがわかります。

これを補うためにもしっかりとした初期の水管理が大切ですね。

～ 散水が可能な場所で仮伏せし、ほだ木づくりを行う場合の散水方法～

【方法】

木片駒の場合、植菌後ほだ木を棒積みにし笠木やダイオネット等で覆い、一晩十分散水する。その後降雨がなければ2日～4日毎に2時間程度の散水を行う。

【場所】

水はけが良く、日当たり、通風が比較的良く、できれば本伏せの場所に近い場所。

6月の降雨が平年を上回る状況で推移していますが、降雨後や降雨の合間の気温上昇で、ほだ木を蒸らさないよう注意しましょう。

2 単価向上

スライスが高単価続きです。第2回目から上昇はじめ、第3回から第11回まで平均で6千円を超えています。

3 量拡大(維持)

(1) 新規参入者について

新たに椎茸栽培をはじめられる人が増えています。その様な皆さんには研修を用意しております。ご近所にその様な方がいらっしゃればご紹介願います。

また、新たにはじめられた皆さんに対し、皆さんのご支援もよろしく願います。

対象	研修名	内容
全くの初心者	しいたけ新規参入者研修 (栽培体験研修)	4日 基礎的な講義と実習
本格的な就業を考えている方	しいたけ新規参入者研修 (生産技術習得研修) (就業定着支援研修)	12日 実際の生産者の元で研修を受ける(伐採・玉切・駒打・伏込・収穫・乾燥等)
1t程度の生産を目指す方!!	大分しいたけ源兵衛塾 (地域の中核的リーダーを養成)	10日 先進地視察・座学・事例紹介等(2年間)

4 コスト削減

(1) 省力栽培の推進

原木しいたけ栽培において一番のネックは原木が重いことです。特に傾斜地においては原木移動を楽に行う必要性を強く感じます。今年は特にそこに注目して情報収集をさせていただければと考えています。

- 皆さんが儲かるためのバックアップ ご利用窓口 -

大分県東部振興局生産流通部
 野菜・椎茸班 担当 栗林(国東市エリア)
 河野(別府市・杵築市・日出町エリア)
 0978-72-1141 FAX0978-72-1242